

学力向上対策室より



4月5日は、教育関係職員合同研修会がありました。

講師は、熊本県山鹿市教育長の堀田浩一郎氏でした。

「学力向上対策室」が設置されてから3年間、津野町の先生方は、山鹿市での視察研修を通し、多くのことを学んできました。「子どもはやまがの宝だ」を合言葉に、いつでもどこでもだれにでもあいさつできる子どもの育成を目標に掲げ、「日本一の学園都市」を目指した山鹿市の様ざまな取り組みは、今や熊本県下に広がるだけでなく、熊本県外からも多くの視察団が山鹿市を訪れるほど、全国に広く知れ渡っています。

目標を決めたら達成する。達成できなかつたら要因を探り、達成できるよう取り組む。徳育（道徳性の育成）は、時間がかかる。人とのかかわりを大事にし、思いやりの心を育むことは時間がかかるが一番大事。学力向上の土台になる。参加者たちは、自分の日頃の取り組みと重ね合わせながら、堀田教育長の熱い語りに引き込まれていました。



参加者の感想より ～勝手ながら一部紹介させていただきます～

「目標を立てたら達成するまでやるのが信頼であるという信念が勉強になりました。「自分の言葉と行動で子どもの心と行動を変える」ということは難しいと思いますが、児童の願いに誠実に対応したいと思います。「甘やかしの関わりは子どもをダメにする。指導のない関わりはすぐ見破られる。こだわりを持った関わりはいつかは理解される」ということがとても大切だと思うので、心がけたいと思いました。「性格は変えられないけど行動は変えることができる」ことを実行していきたいと思います。

津野町が山鹿市を手本とした理由を、あらためて理解することができました。

心を育てるには時間がかかると先生が言った言葉は本当にその通りだなと思いました。小さい時から親を見て家庭で育ち大きくなっていくので、今子育てをしている自分に、とても響きました。学校の子どもも同じですね。家庭、地域、学校、みんなで一緒に育てていくことが大事だと思いました。



心が育ってこそ学力も付いてくるものだと改めて思いました。



講話の中では話されなかったので、お帰りの際に聞いてみると、山鹿市の全国学力テスト結果は、中学校は、熊本県内で2位以下を大きく離しての1位、小学校は3位とのことでした。

平成25年3月末まで、山鹿中学校の校長として「山中スピリッツ～あきらめない、絶対に、あきらめない～」を掲げ、生徒を我が子のように愛情を持って指導してきた堀田氏の魅力的な「人となり」に一歩でも近づきたいと思いました。